

特集 これからの福祉教育を考えよう



目次	令和元年台風19号大雨災害復興支援報告	— 4
	赤い羽根共同募金	— 5
	県社協ニュース	— 6
	被災地からの発信	— 10
	『ふくし』の仕事人たち	— 12
	SELP商品のご紹介	— 12



社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
 URL : <http://www.fukushiokayama.or.jp/>
 facebook : <https://www.facebook.com/fukushiokayama/>



「晴れの国おかやまボランティア隊」 丸森町災害VCにて



「地域福祉は福祉教育にはじまり、福祉教育に終わる」という言葉があります。それくらい「福祉教育」は、私たち社会福祉協議会（以下 社協）が大事にすべき取り組みです。

しかし今の私たち社協は、事業に追われ、「福祉教育」が疎かになっていないでしょうか。なぜ「福祉教育」が大事なのか、もう一度問い直したいと思います。



これからの福祉教育 を考えよう

「体験ありきの福祉教育」

県内の市町村社協では、長年、「福祉教育」として学校に出向いて、車椅子やアイマスク体験を行ういわゆる「出前福祉講座」を実施してきました。しかし、担当する職員からは、「学校数が多く、こなすだけになっていて、学びの場になっていない」「内容がマンネリ化しているが、見直しもできておらず、自信を持って伝えることができていない」などの声がありました。

こうした声をふまえ、岡山県社協では、「福祉教育」に力をいれるべく、2018年から「これからの福祉教育・ボランティア学習を考える会」を開催。参加者は、県内の社協職員、県教育委員会、福祉教育に関わるNPO関係者などです。議論を続ける中で、現在の課題が見えてきました。

例えば、「体験が目的になっていて、なぜ体験を提供するのかという視点が抜けている」「何を目的にしているのか、学校とのすり合わせができていない」などです。また、そもそも体験の提供だけに終わり、事前の学習やふりかえりの時間が確保できていないという状況もわかってきました。

「いまからの問い直し」

「領域を広げる」「ずれる出会い」

会のアドバイザーをお願いしているシチズンシップ共育企画の川中大輔さんから「いまからの問い直し」「領域を広げる」「ずれる出会い」という3つのキーワードをあげてもらいました。

今の若者が抱く「福祉」という言葉のイメージがよくない状況はどこからきているのか、社協の福祉教育の機会も、その原因の一つになっていないだろうか、疑似体験以外の新しいプログラムが必要なのではないか、そして、今行っている体験で聞かれる「かわいそう」「助けてあげたい」といった感想だけでは、実際の行動にはつながらないし、むしろ持っている偏見を強化することになっていないか、想像をこえる、考えをほぐすような出会いが必要なのではないかということが議論されました。

例えば「高齢者疑似体験」。高齢に伴う身体的、感覚機能の低下を体験し、高齢者理解を促すものですが、それに伴う心理を実感し、漠然とした「高齢者」のイメージ

●「出前福祉講座」の現在の状況

- ・体験が目的になっており、ふりかえりができていないため、学びにつながっていない。そのため、行動からの探究につながらない。
- ・高齢者、障害について、個人モデルで理解している。
- ・学校にとっての意図を把握しておらず、先生と福祉教育の目的を共有できていない。生徒の学びでなく大人の欲しい言葉を求める形になっている。
- ・提供しているメニュー、プログラムがマンネリ化している。
- ・社協職員自身が、福祉教育の目的を理解していない。自信を持って出前福祉講座等の事業を実践できていない。

●今後、持っていきたい状況

- ・事前学習、体験、事後学習（ふりかえり）をセットで提供する。
- ・学校の意図を把握し、先生と目的、生徒にどうなってほしいかを共有できる。
- ・高齢者、障害について、社会モデルで理解する。
- ・学校、地域との協働による実践。
- ・提供しているメニュー、プログラムを見直し、時代に合ったものを追加する。
- ・社協職員が明確な意図と自信を持ち、福祉教育を実践できる。

●会へのゲストの皆さん



①利用者の個性や表現を大事にした取り組みを行う「ぬかつくるところ」代表の中野厚志さん（左）や、OiBokkeShi（オイボッケシ）という劇団を主宰する介護士・俳優の菅原直樹さん（右）。



②車いす等の福祉用具を専門に扱うアーケテクノサービスの岩田成矢さん（右）等多様なゲストを招いて検討しています。

をつくるだけでは、「高齢者の生活は大変だ、年をとりたくない」などというマイナスのイメージを与えることになっているのではないかと感じています。ここを変えたいためには、新たな切り口でプログラムを考える必要があります。

新しいプログラムをつくる

会も回を重ね、学校との連携に向けた改善案もみえてきました。会に参加してくれた教員からもプログラムを考えるうえで、「子ども達にどうなってもらいたいのか」という視点が重要というアドバイスもいただきました。

参加者の一人、吉備中央町協会の三城さんは『この会に出たことで、授業時間を拡大してもらい、事前学習と、ふりかえりを盛り込んで実施しています。体験も工夫し、これまでと違った反応になりました。ある学校では、学習発表会で、車いす利用者が地域を歩いていたというのを想定した劇を披露。車いすが段差につまった場面、司会が止めて、「あなたならどうしますか?」と問いかける場面がありました。』と早速実践につなげてくれています。

会の参加者であるゆうあいセン



川中大輔さん（中央左） 西村こころさん（右端）
左端と中央右は、本会の担当職員（西村、角南）。

ター所長の西村こころさんから「改めて福祉とは何かと考えると、個人の尊厳を大事にしていくことなのかな、と感じている。いかなる個人も蔑ろにしない社会にするために、尊厳について学びを積み上げていける福祉教育プログラムをつくられたらと思う。」と期待をいただきました。

来年度からは、新しいプログラムを開始します。それにあたり、今、車いすや、視覚障害を持つ当事者の方と検討中です。講座を担う私たち社協職員自身が自信を持って提供できるものをつくり、社会に発信していきたいと思っています。

令和元年台風19号大雨 災害復興支援報告

令和元年10月12日に発生した台風19号大雨災害により、東北、関東、中部地方等を中心に甚大な被害が発生しました。被災にあつた多くの地域では、今なお、懸命な支援活動が続いています。

ここで本会における支援活動の一部について報告します。

▼職員派遣について

本会では「中国ブロック県・指定都市社会福祉協議会 災害時の相互支援に関する協定」に基づき、職員派遣を行いました。11～12月で県内社協を含め4名を、宮城県丸森町に派遣し、災害ボランティアアセンター（以下、災害VC）の運営支援にあたりました。

また、被災世帯における生活福祉資金の貸付けとして、2名の職員を緊急小口資金の貸付業務支援のために同県大崎市へ派遣を行いました。

▼災害支援ボランティアバス『晴れの国おかやまボランティア隊』について

11月22日から、11月29日から

の2便、岡山県の協力によりボランティアバス『晴れの国おかやまボランティア隊』の運行を行いました。参加者は県内の18～79歳（男性26名、女性7名）と幅広く、平成30年7月豪雨災害時に、全国から多くの支援をいただいた感謝の気持ちを届けたいと参加され、現地で2日間の活動を行いました（現地2泊、車中1泊）。



1階の窓ガラスが大破した建物

第1便は、天候により活動場所が急遽変更し、1日目は宮城県大郷町、2日目は宮城県丸森町で活動を行いました。ビニールハウスに流れついた稲藁等の撤去や、個人宅での家具運搬や泥だし等も行いました。天候により活動が制限されてしまうことは致し方ないことですが、その中でも現地の災害VCが受入れにご配慮をいただき、活動することができました。



個人宅での活動の様子

第2便は、天候の心配をすることなく2日とも丸森町で、個人宅でのゴミの搬出や泥だし、道路に溜まり続けている泥の撤去等の活動を行いました。作業の傍らで、依頼者の方から被災時の状況や、その後の生活の様子等についても、お聞きすることができ、被災当時の様子を心に思いながら活動ができたようです。

依頼者の方から『久しぶりにこんなに笑顔になった』という言葉をいただき、勇気を出しボランティアバスに参加してよかったと言われる方もいました。

今回の参加者は、災害ボランティア経験がある方、ない方、様々でしたが、それぞれの思いで参加され、現地に行ったからこそ感じる雰囲気や現地の様子とあわせて、貴重な経験値を持ち帰り、全

員無事に岡山に帰って来ることができました。



活動を終えて笑顔で帰られた参加者のみなさん

今回、支援に入った被災地だけでなく、多くの被災地がそれぞれで、置かれた現状をふまえながら、元の生活に戻るために活動しています。今後は仮設住宅や自宅等において、現状の不安を抱えて生活している被災者に寄り添う、見守り・声かけ活動等も必要となってきます。

先月、阪神・淡路大震災から25年を迎えました。毎年どこかで災害が起こっています。困ったときはお互い様という気持ちを持ち続け、被災地へ心を寄り添わせながら、災害を忘れず、息の長い支援をしていけたらと思います。

赤い羽根共同募金



令和元年度NHK歳末たすけあい配分交付式

令和元年度NHK歳末たすけあい配分交付式を12月19日(木)、岡山駅西口のひかりの広場(リットシティビル内)にて開催し、配分が決定した福祉関係団体、障害者福祉施設、災害ボランティア活動団体(合計26施設・団体)に対し、総額3,969,000円の配分決定通知書を交付しました。

あたたかい募金をお寄せいただいた方々をはじめ、ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



ありがとうメッセージ

《外壁改修工事》

本作業所では、利用者の内職作業として、地域のペットボトルの回収・分別作業に取り組んでいますが、回収スペースの外壁が劣化し、危険な状態になっていたため、今回の助成金で外壁改修をさせていただきました。

おかげさまで、地域住民の方も安全に使用できるようになり、回収量も大幅に増えました。

ありがとうございました。

こだま園芳井ふれあい作業所

《菓子製造用備品整備事業》

今回いただいた助成金で菓子製造に使用する備品を整備させていただきました。これにより、生地を捏ねる作業などこれまで手作業で行っていた工程を短縮することができ、多くの商品を作ることができるようになりました。

これからもますます充実した作業所となるように励みたいと思います。ありがとうございました。

就労継続支援A型事業所 のぞみ

通信で
社会福祉士を
めざすなら

第31回国家試験

合格率 37.8%

広島県内 第1位(通信5校中)

※全国平均 24.9% (社会福祉振興・試験センター調べ)

教育訓練給付金利用により授業料 50% 給付



学校法人 穴吹学園

穴吹医療福祉専門学校

福山 穴吹 社会福祉

検索

2020年度

入学生募集中!



TEL 084-931-3325

●各種看板・サイン・POP・展示装飾・デザイン●

広告美術 企画-製作

美術工房



社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会会員

TEL 086-271-4410(代)

FAX 086-271-4412

〒703-8251 岡山市中区竹田17-13



〔開催報告〕

中国ブロック 日常生活自立支援事業 専門員研修会

「地域共生社会における権利擁護支援」

— 日常生活自立支援事業と多機関協働の支援とは —

12月5日(木)・6日(金)の2日間、きらめきプラザにて、中国・四国ブロックの市町村社協職員を対象に開催し、約90名の方にお越しいただきました。

第1日目は、厚労省 石井義恭さんより「地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備について」、全社協 水谷詩帆さんより「本事業の現状と今後の展開について」ご説明後、基調講演として、同志社大学 永田祐先生より、本事業を含めた権利擁護支援体制と地域共生社会の一体的な取り組みの重要性についてご講義いただきました。

また、事例報告会では、本事業が多機関協働により活用されている3事例(①美作市社協 松本陽さん「本事業と子どもの学習支援」、②赤磐市社協 廣井伸一郎さん「本事業と家計改善支援事業の連携支援」、③兵庫県伊丹市社協 増田達哉さん「社協内部における総合相談支援体制」)について発表していただきました。

第2日目は、徳島県社協 本事業

業契約締結審査会委員長でもある徳島大学大学院 柳沢志津子先生をお招きし、本事業の困難ケースに関する調査結果についてご紹介いただいた後、「関係機関のネットワーク構築に苦慮しているケース」と題し、岡山市社協 畑井亜衣さんからの事例をもとに検討を行いました。

参加者の方からは、「二日間を通じて、多機関・多職種で取り組む大切さを痛感した」、「まずは社協内で個別支援と地域支援が連携する機会を増やしていきたい」等の声をいただき、大盛況に終わりました。



事例検討会(第2日目)の様子

第46回「ヤクルト愛の車いす」贈呈式

県下のヤクルト販売株式会社(岡山ヤクルト販売株式会社、岡山県西部ヤクルト販売株式会社、津山ヤクルト販売株式会社)により、チャリティーセールスの収益の一部で購入された車いす100台が、県内の市町村社協や福祉施設、医療機関に寄贈されました。

寄贈事業は昭和49年に始まり、寄贈台数は累計2308台となりました。

1月15日(水)にきらめきプラザにて開催された贈呈式では、ヤクルト販売株式会社3社より本会に目録を贈呈していただきました。



贈呈式の様子

福祉の労務管理は福祉の社労士にお任せください!



労務管理で
困っている

- ・就業規則の見直し
- ・人材育成
- ・人材定着
- ・助成金の活用
- ・セミナー講師
- ・業務の効率化

Ai あい社会保険労務士法人 ☎ 0863-81-5634

特定社会保険労務士 佐藤起世子
〒706-0024 玉野市御崎 2-3-13

あい社会保険労務士法人

検索

<http://aisr.or.jp/> メルマガ募集中!
メルマガはHPからお申し込みください。

岡山少年院・岡山少年鑑別所
見学会を開催

12月17日(火)、岡山少年院・岡山少年鑑別所にて、矯正施設見学会を開催しました。

今年度は参加対象を県内の相談支援事業所職員とし、31事業所/31名が参加されました。定員を大きく超える申し込みをいただき、障害者福祉現場における司法福祉・触法少年支援への関心の高さがうかがえました。

当日のプログラム

- ◇岡山少年院
…少年院の概要説明、施設内参観
- ◇岡山県地域生活定着支援センター
…触法少年への福祉的支援に関する説明
- ◇岡山少年鑑別所
…少年鑑別所の概要説明、施設内参観
- ◇感想共有・質疑応答

岡山少年院では、院内での少年達の生活の様子や、提供されているプログラムの内容、また、少年を支援する際に必要となる視点や



少年院での説明の様子

【お問い合わせ先】
岡山県地域生活定着支援センター
TEL086-226-2840

考え方等について、岡山少年鑑別所では鑑別所の役割や地域との協働について、それぞれ説明と施設内参観を通して学びました。
参加者からは「実際に少年院を退院した少年を支援している中で感じていた不安感が少し解消された」「矯正施設から地域福祉に移行する中で、途切れない支援を行うためには、それぞれの役割や実態を知り、連携することが必要と感じた」といった声が聞かれました。
福祉従事者を対象とした矯正施設見学会は、次年度も開催予定です。(※日程等は未定です)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成31年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償 葬祭費用保険金 (特定感染症)	上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ		300万円(限度額)	
賠償責任	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		350円	510円
天災タイプ(※) <small>(基本タイプ+地震・噴火・津波)</small>		500円	710円

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJNK18-13568 2019.1.16作成)



メンタルヘルス推進担当者 研修会を開催

12月5日(木)、13日(金)、18日(火)に、『メンタルヘルス推進担当者研修会』知っておくべきメンタルヘルスケアの7つのポイント』を開催しました。講師には、(一社)日本産業カウンセラー協会中国支部 認定講師の大森かずめさんをお招きし、3日間で延べ110名の方に参加いただきました。

本研修は、前年度までの『メンタルヘルス担当者研修会』が、より分かりやすく、すぐに活かせる内容にパワーアップしたもので、各日で、「セルフケア」、「ラインケア」、「組織を考える」と題して、メンタルヘルスケアの基礎や現場で活かせる傾聴方法等を、演習を交えながら学びました。

本研修の学びが、参加者の皆様の福祉・介護の職場における働きやすい環境づくりに繋がることを切に願っております。



無理しない地域づくりの学校 第5期修了!

平成26年から実施している無理しない地域づくりの学校も第5期が修了しました。6月の開講の頃は、自分の言葉で伝えることもままならない受講者も、6回の集合研修や毎回課せられる課題を行っていくと、最終回には受講生全員が「自分の本当の言葉」として、自然に発表できていたのが印象的でした。

この学校は、受講生だけでなく、講座卒業生や毎回異なるゲスト、そして2名の講師等と一緒に作って作り上げている講座になります。会場もお寺や教会など様々です。すぐに実践できる人もいればできない人もいます。自分の枠を飛び出した物の捉え方に気付き、自分なりの歩みを進めるための学びの場となっています。



無理しない地域づくりの学校の様子



令和2年度岡山県社協広告募集

機関紙『岡山県社会福祉』

社会福祉関係者に本会の取組みや最新の福祉動向を紹介する機関紙です。
発行回数：年4回(4・7・10・1月の15日発行) 発行部数：1回あたり5,900部
配布先：民生委員・児童委員(約3,000名)
社会福祉法人・施設(約1,900ヶ所)等
広告掲載料：A4サイズ1/4 会員18,000円 A4サイズ1/8 会員10,000円
非会員27,000円 非会員15,000円



ホームページバナーや福祉求人情報誌等の広告も随時募集中です。詳細は、ホームページをご覧ください。
【お問い合わせ先】岡山県社会福祉協議会 総務企画部 TEL:086-226-2822

“お車の共済の事なら!”



西日本自動車共済協同組合

お見積り、ご相談、無料で承りますので
お気軽にご連絡下さい!

岡山県支部 〒700-0927
岡山市北区西古松 237-126 松本ビル3F
TEL086-246-3355 FAX086-246-3375

【本部】福岡市博多区東比恵 2-15-25
TEL: 092-441-5901

NJ730.1603.0250.999999



2019読者アンケートについて

10月号で実施しました、読者アンケートにご協力いただきありがとうございました。251名という多くの方からご回答いただきました。

いただいたご意見は次年度の機関紙制作へ活かしていきたいと思っております。

なお、抽選の記念品については、2月下旬頃にご案内いたします。



ソウェルクラブ Social Welfare Club **ソウェルクラブへようこそ！！**

- 福利厚生センター（ソウェルクラブ）は、社会福祉法に基づき「社会福祉事業従事者の福利厚生の増進を図る」ことを目的に厚生労働大臣から指定された唯一の法人です。個々の法人では成し得ない福利厚生事業を全国規模で共有化することにより、規模のメリットを最大限に活かし、多種多様なサービスを提供しています。
- 岡山県社会福祉協議会では、同センターの岡山事務局（業務委託団体）として、地域に密着した会員のニーズに対応しています。

サービス内容

給付事業、健康管理サービス、各種講習会・海外研修の実施、レジャー・宿泊施設の割引、各種保険・ローン、クラブ・サークル活動助成等

掛金（職員一人当たり）

【常勤職員】 毎年度1万円
【非常勤職員】 毎年度5千円

岡山事務局独自の会員交流事業等

旅行や食事会・食事券、映画観賞券など、独自に会員交流事業等を行っています。旅行は、アンケート等で会員の意見を参考にしながら毎年企画内容を決めて実施しており、毎回、大勢の方に申込みいただいています。いずれもソウェルクラブ会員価格でご案内しており、安価で様々な事業等に参加いただけます。



大阪 なんばグランド花月



和歌山 アドベンチャーワールド

魅力ある職場づくりにぜひ、「ソウェルクラブ」をご活用ください。



【令和元年度会員交流事業等】

企画	時期	内容
旅行	7月	涼しさを体感！京都高雄 夏限定 川床料理・嵐山フリータイム
	日帰り	9月 なんばグランド花月 大阪日帰り旅行
	11月	絶品蟹を堪能！大江ノ郷スイーツ！鳥取満足日帰り旅行
	1泊2日	6月 南紀白浜マリriottホテルに泊まる！和歌山ゴールドルート
	2泊3日	10月 秋の鎌倉散策と東京ディズニーランドの旅
食事会・券	夏・冬	レストラン、ホテル等での食事会・食事券
映画観賞券	冬	イオンシネマ映画観賞券



京都高雄 川床料理



（お問合せ）

岡山県社会福祉協議会 地域福祉部・経営支援班（福利厚生事業）

TEL：086-226-2827



2020年4月入学生願書受付中！（最終締切 2020年3月19日㊦）

社会福祉学科 通信課程

中国、四国地方で唯一の短期養成課程!!
※公益財団法人社会福祉振興・試験センター調べ

一般養成課程（1年6ヶ月コース）・短期養成課程（9ヶ月コース）

精神保健福祉学科 通信課程

一般養成課程（1年7ヶ月コース）・短期養成課程（9ヶ月コース）



教育訓練給付制度
対象講座



詳しくは
QRコードから
HPをごらん
ください。

好きを極めてプロになる



学校法人吹奏学園
響穴吹パティシエ福祉カレッジ

〒760-0021 香川県高松市西の丸町14-10

TEL.087-823-5566

※スクーリングはJR高松駅すぐ近くの当校校舎で行います。

自主防災力II地域の組織力

下原・砂古自主防災組織

平成30年7月豪雨から一年半が経ちました。「被災地からの発信」では、被災地を中心に活動している団体取材し、被災地の当時の状況や現状、今後について、情報発信しています。

今号では、西日本豪雨・アルミ工場爆発に見舞われながらも、住民全員が無事に避難できた総社市下原地区の自主防災組織「下原・砂古自主防災組織」副本部長・総社市民生委員児童委員協議会 会長 川田一馬さん取材しました。

平成30年7月6日

当時、私たちは下原公会堂で、「大雨の中、いつ住民を避難させるか」について話し合いを行っていたところでした。23時35分、『ドンッ』という大きな爆発音とともに、窓ガラスが割れ、ガラス片が飛び散り、ホワイトボードが飛んできました。仲間の何名かはガラス片で顔等を切る怪我をしてしまいました。なんとか無事でした。その後、顔見知りの総社市災害対策本部の部長から、2度目の爆発の恐れや河川の状態を考慮し、全戸全員に避難を呼びかけることとなり、マイカーと公用車で吉備路アリーナへ避難を開始しました。深夜2時30分頃、住民の大半が避



アルミ工場爆発後の様子

難完了。全住民の所在場所、犠牲者ゼロの確認が取れたのは8時をすぎた頃でした。

振り返り、まず思う事は、全員が無事で避難できたことが嬉しいということに尽きます。また、そ

れまでは、『必ず来る』とは言っていない、どこか他人事だった災害ですが、今回の経験で、いつどこで発生してもおかしくはない、身近な事柄だということを改めて感じました。

東日本大震災をきっかけに

私たちの組織が活動する下原地区は、総社市の南西に位置する自然に恵まれた暮らしやすい地域です。地域活動が活発で、繋がり強い地域である一方で、一級河川の高梁川と新本川、そして、小田川の合流地点のすぐ北に位置することもあり、昔から水害に悩まされる地域でもありました。

そんな下原地区で、東日本大震災が発災したことを受けて、8年



総社市下原地区の所在地

前、自主防災組織を設立しました。『災害は必ず来る』と言い続け、自分たちでできることを続けていくことを念頭に、毎年1回、避難訓練を実施してきました。避難訓練は、地震や大洪水、雨中等、様々な想定のおうえで行ってきました。

今回の災害では、夜間や雨中の訓練をはじめ、避難訓練で学んだことの全てを活かすことができただため、誰一人犠牲者を出さずことなく、全住民が無事に避難できたのだと思います。

信頼関係の先に…

今回、住民全員が無事に避難できた要因の一つには普段からの信頼関係づくりがあります。顔も知



雨中を想定した避難訓練の様子

らない誰かからの電話で、「避難してください」と言われて、誰がすぐに動けるか。やはりそれは難しいと思います。信頼できる人に言われるからこそ、その言葉を信じ、すぐに行動に移すことができると思います。日頃から、顔の見える関係を築いていくことが重要だと感じています。それは、避難訓練はもちろん、下原地区運動会やお祭りと等の伝統行事、地域の清掃活動等も含まれます。そういった日々の積み重ねが信頼関係を生み、そして、災害に強い地域づくりに繋がるのだと思います。

現在、住民の80%が下原地区に戻ってきています(3月末までに90%に達する予定)。「下原は防災に取り組んでいる。地域住民が温かい。だから帰ってきた」と言う若い世帯もいます。これまで行ってきた自主防災の取り組みが、地域の組織力を高めることにも繋がっていると感じています。

いつどんな災害が起きようとも

今後の課題としては、平日の昼間、高齢者や乳幼児等の自分たちだけでは逃げるのが困難な人ばかりになる時間帯に、今回のように犠牲者ゼロで、どのように避難するか。現在、大学の防災・福祉専門家による要配慮者22名の実際の避難行動の検証を行っています。いつどんな災害が起きようと瞬時に対応できるよう、様々なパ

たとき、隔年開催か3年に1回の開催等、開催のスペンを開けてもいいのでは?と提案したことがあります。ところが、住民から、「そんなことをしていたら、しまいは無くなってしまおう」「毎年やるから意味がある」といった声が多く上がり、これまで毎年欠かさずに続けてくることができました。

こうした声が出るからこそが、「自主防災力」であり、「地域の組織力」であると改めて感じています。

ターンでの対応を考えることで、下原地区をより一層、災害に強い地域にしていきたいと思っています。

「地域にある課題を『課題』で終わらすのではなく、一歩でも、半歩でも前に進めていきたい」と話す川田さん。「地域の問題はたくさんあり、できない理由をあげることしかない。でも、できていることもたくさんあります。どんな些細なことでもいいと思います。地域のことをまず知って、できることを話し合うことから始めたら、地域の組織力があがっていくと思います」と、力強く話されていました。



今回話を伺った川田さん

【お問い合わせ】

〒719-1119 2

総社市中央1-1-1

総社市民生委員児童委員協議会

(事務局・総社市福祉課)

TEL 0866-921-8264

どこよりも解りやすい 指導監査の個別指導!

経営幹部の方 / 経理・事務スタッフの方

Q 役員選任には監事の同意が必要?

Q 監事は評議員会に出席する義務があるの?

Q 賞与引当金は必ずしなげやだめなの?

悩み・疑問を一斉解決!

急な指導監査でも…

・慌てない
・困らない
・揉めない



SCB社福サポート担当 いしはら

株式会社 創明コンサルティング・ブレイン
SCB 公認会計士・税理士 宮崎 会計事務所

☎ 0120-747-824

受付時間
9:00~17:30(平日)

〒702-8002 岡山県岡山市中区桑野713番地10
[HP] <http://www.ssc-scb.com>



『ふくし』の 仕事人たち vol.48

施設・団体等で働く「ふくし」の仕事に携わる人たちの声を紹介していきます。



認定特定非営利活動法人
 ポケットサポート
 代表理事 **三好 祐也** さん
 [キャッチフレーズ] 病気だけど誰よりも元気!

今号では、主に小児がんや心臓疾患など、慢性的な病気で長期にわたり入院や治療が必要な子どもたちの学習や復学・自立を支援する認定特定非営利活動法人ポケットサポートの代表理事の三好祐也さんにお話を伺いました。

①活動をはじめたきっかけは？
 入院中に通っていた院内学級で、大学生の時ボランティアをしたことがきっかけです。入院しながら教育を受ける子どもたち

ちに退院後の生活で気をつけること等を伝えることで、自分の経験が役に立っていることを感じました。また、当事者であることが彼らとの心の距離を近くし、言葉が届きやすいという強みにも気づきました。

②活動の中で大切にしていることはありますか？
 子どもたちの代弁者でありたいと思っています。親や医療関係者ではなく当事者が中心の支援団体であるからこそできる病気の子どもたちの本当の声を届けていきたいです。そのためには安心して過ごせる環境や、この人になら話せるという関係を作る必要があると思います。目指しているのは、尊敬されるけど馬鹿にされる存在。相手にいかに隙を与えるかも大切だと思っています。一番苦手なのは

思春期女子(笑)。最近はおラంటイアの女子大生に任せるようにしています。病院の中に恋バナができる人がいるって良くないですか？

③今後の活動への想いを教えてください。
 病気の子どもたちは孤独で、同じように闘病している子と知り合いたいという想いを聴くことがあります。しかし、院内学級が設置されている病院は限られており、支援に入れる病院をもっと増やしたいと思っています。また、一過性の支援ではなく、人生で困った時に相談できる場所の一つとして存在していきたいと思っています。関わった子どもたちが、高校生になって手伝いに来てくれることもあり、次の世代へ思いが繋がってきていると感じています。

当法人は「病気を抱える子どもたちが将来への希望を持ち、自分らしく暮らせる社会に」をビジョンに活動しています。これは福祉関係者にも通じることではないでしょうか。ゴール(目的)は同じ。受け取ったパスを互いにつなぐ仲間として福祉関係者とも連携していけたらと思っています。

認定特定非営利活動法人
ポケットサポート
 ●事務局●
 岡山市北区奥田本町22-2
 (086)941-1713
<http://www.poketasapo.com/>

機関紙
 「岡山県社会福祉」への
 ご意見・ご感想を
 お寄せください！

ご意見・ご感想をいただいた方の中から3名様にSELP商品紹介事業所の商品をプレゼントします。

機関紙へのご意見・ご感想、住所、氏名、年齢をご記入の上、下記までお送りください。

■郵送
 〒700-0807
 岡山市北区南方2丁目13-1
 きらめきプラザ3階
 岡山県社会福祉協議会
 機関紙編集班

■FAX
 086-227-3566 まで
 なお、当選の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

SELP商品の紹介

社会福祉法人 **自然の森**
エスポアル・セルブ (就労継続支援B型)
エスポアル・スター (生活介護)

エスポアル・セルブの主な事業所では視覚障害者の役に立っている、社会に貢献しているとの誇りを持って点字ブロック作成作業に取り組んでいます。オリンピック・パラリンピックの会場ではエスポアルでの点字ブロックが敷かれていると聞いています。エスポアル・スターではクラフトパンチで型抜きした色々な紙を使って、季節に応じたメッセージカードや誕生日のカードを作りました。心温まるメッセージの贈り物と共に是非ご利用ください。七宝焼きは利用者の方が自由に色づけしました。バックホルダー、キーホルダー、ストラップ等あります。

問い合わせ先

エスポアル・セルブ	TEL	086-284-8000
エスポアル・スター	TEL	086-284-8006
	FAX	086-284-8000
	TEL	086-284-8006
	e-mail	esupo@msj.biglobe.ne.jp

■商品名 / ・メッセージカード (季節・誕生日等) ・七宝焼き
 ■販売価格 / カード 1枚70円、七宝焼き キーホルダー、ストラップ、バックホルダー 等 200円~400円
 ■原材料表示 / 紙 七宝焼き

編集後記
 今年は何と言っても東京オリンピック・パラリンピックですね！昨年に引き続きONE TEAM(ワンチーム)で、精一杯盛り上げていきたいものです。ガンバレ！ニッポン！